日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　2011年９月11日（日）第1410号(1)

民報 ゆうばり

# 夕張市議会主催「住民懇談会」開かれる

# 生活環境の悪化、財政破綻の原因検証を‥など活発な意見続出！

## 市議会懇談会開催 100人参加、議会への強い関心・期待 開催を歓迎する声多数

8月30、31日の2回にわたり、夕張市議会主催の住民懇談会が開かれました。

初日の清水沢会場は50名を超え、2日目も、はまなす会館に40名を超える参加で、どちらの会場も多数の発言があり、議会に対する強い関心と大きな期待が寄せられていました。

市議会懇談会にたくさんの市民の声が！

### どうする財政再建？国や道の責任

市民として共通した最大の関心事は財政再建の取り組みで、今年度から始まった新しい法律による再生計画について、返済期間17年と322億円にどう対処するのかでした。国や道の責任を求める立場を口にする議員は多数いたものの、「4年前の議会懇談会では、破綻の原因を検証すると聞いているがどうか」との質問に答える議員はいませんでした。

日本共産党のくまがい桂子議員は「国会における総務大臣の答弁はいずれも国の責任を認めている。議会と市民と行政とが一体になって、国に立ち向かっていくべき」と発言。

さらに、終息のめども立たない放射能汚染拡大にふれ、「夕張財政破綻と同じく、国のエネルギー政策が原因で福島原発災害が起きている。大企業や財界の利益優先のため、国民に多大な犠牲を押し付けている」と二つの問題の共通性を指摘し、「市民に広く呼びかけて夕張から全国へ向けて脱原発の輪を大きくする必要性」を訴えました。

### 「道路を！」「地域を！」

「財政破綻後、生活環境の悪化が進み、予算が付かないだろうと諦めていたが限界になった」と、生活道路の破損状況について切実な要請が出されました。緊急時に救急車も入れない状況など対策を急ぐ個所もあると発言があり、これに対し「行政だけにまかせず、議員の立場で市内を見て回る」との具体的な応答がありました。

この他に南部地域では、シューパロダム工事後の対策について、「まちづくりマスタープランとの関連で具体的に示してほしい。長年住み続けた地域があと一、二年で深刻な問題になる」と話がありました。

### 会派はなぜ？親しまれる議会を

両会場とも議長選びに関して発言があり「市民が納得するような選出方法は無いのか」と質問がでました。「議員定数が9議席になった4年前には無かった会派を、今回は何故つくることになったのか」と、その理由や理念を聞きたいと複数の発言がありました。

会派の議員を含め代表者や他の議員から関連の発言もありましたが、多くの参加者はあまり納得できない様子でした。

議会傍聴席に関する要望では「身体の不自由な人も参加できるように階段の手すりや車いすの場所を工夫してほしい」との発言がありました。これに対し、議会として取り組むと応答がありました。さらに、すでに改善した事の一つとして「9月議会の2日目、9月14日は日中仕事をしている人のために夜間議会を開くこと」など市民に親しまれる改革を実現することになったとの報告がありました。

### 若い人の参加を！

**石巻からの青年が訴え**

今回の懇談会には発言も多数あった中、今後に期待するものがありました。

その一つが「開催箇所が2ヶ所では少ないのではないか、地域の実情を把握する上でも増やして欲しい」との発言や、「夕張には可能性がある。参加者の年齢が年配者に偏っているので若い人がもっと参加できるように工夫をしてほしい」と東日本大震災にあい、石巻から避難してきた青年の発言が注目されていました。

＊日本共産党夕張市委員会　e－メール　jcp.yubari@gmail.com　HP　http://pub.ne.jp/jcpyubari/　もぜひご覧ください。

# 平和の旅 in 長沼

## ゆうばり女性９条の会

### 長沼で開拓農民の闘いの歴史と秋のめぐみにであう！

３日、「ゆうばり女性９条の会」は、長沼平和ツアー（15名参加）を行いました。

この日は、台風が心配されましたが、会員の方々の精進がよく、雨にあたることなく見学することが出来ました。

『野呂栄太郎の碑』『長沼農民碑』では、野呂栄太郎にまつわる話や、長沼の開拓農民の闘いや苦労、「長沼運河」を作ったタコ部屋労働者の過酷な歴史を学びました。また、「ミサイル基地」でも、闘いの歴史や基地交付金の話を聞き、基地は、人々を守るものではないことが再確認できました。

熱心に基地を見学！

各地から参加された方々と楽しく交流！

見学後の交流会は、薮田さんのビニールハウスの中で、ジンギスカンと採りたて野菜を存分に味わいながら行われました。

今回ツアーに参加されたＩさんは、「長沼農民の歴史、夕張とのつながりがわかった」、Ｔさんは「原発問題も基地問題も根っこは同じ。お金で人の心を買うやり方に怒りを感じた」と、感想を語ってくれました。

# 第54回 北海道母親大会

## 9月4日　札幌で開催

夕張からは、16人が参加。午前は分科会と特別企画という内容で進められました。

特別企画では『米軍基地はどこにもいらない！』と題して、ジャーナリストの影山あさ子さんが、沖縄・普天間・辺野古、米軍基地問題を考えようと、ドキュメンタリー映像を上映しながらのお話でした。

午後は活動交流の後、記念講演があり、講師は、東北大学名誉教授日野秀逸さん。大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター代表でもあり、『平和と健康は幸福の必須条件―憲法的人間像を求めて―』と題しての講演でした。

大震災復活は、９条・11条・25条・地方自治法１条など憲法の目でとらえ、憲法に立脚した政治で、軍事経済の道に入り込ませないこと。日本社会の転換なくして復興は無いと話されました。

全体会で元気な歌声を披露するお母さんと子どもたち。会場に、「この子らの笑顔を守ろう！」の思い広がる！

## 「かけある記」

日本共産党国会議員団
北海道事務所長
宮内　聡

### 「救援・復興まつり」

北海道から宮城県気仙沼市へのボランティアや物資のお届けは引き続きおこなっています。私も「しんぶん赤旗配達用のバイク」を積んで気仙沼に届けてきました。これらの活動を紹介する党北海道委員会の「気仙沼救援・復興ニュース」は20号を超え、現地からの要望がニュースに載って、北海道の各地から様々な物資が届けられます。

現地の皆さんは、少しずつ元気になり「子どもまつり」が行なわれました。私はその手伝いをして、子ども会一同からすてきな感謝状をもらいました。

気仙沼では、新しい仮設住宅が次々に建設されていますから、そこへの物資届けは続いていますが、今度は仮設でくらしている方の要望を聞き、いっしょに実現させる活動にも取り組み始めました。仮設住宅の集会所を借りて「つどい」も計画されています。がれき撤去などの力仕事ばかりではありませんので、ぜひ多くの方にボランティアに参加してほしいと思っています。

北海道委員会では９月23日に、近所のきかんし印刷と北海道商工団体連合会、民青同盟北海道委員会といっしょに、町内会の協力も得て、道委員会前の「偕楽園緑地」で「救援・復興まつり」をおこないます。日本共産党の救援・復興の活動がわかる企画やバザーも計画しており、地域に開かれた日本共産党として地域の方々とのふれあいを通じて支援活動を広げたいと思っています。ぜひお越しください。